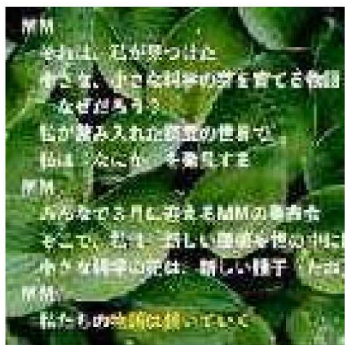


「知的わくわく磁性流体モデル」を大学と中学校が協働で実現し、  
科学のわく組を動かせる次世代系人材を育成する

令和7年度第9日目 2026年3月20日（金）

## 令和7年度講座 成果発表会 & 閉講式



「3月、新しい価値を世の中に問う」  
そんな、たいそうなことが自分にはできるのだろうか...開講日にそう感じた受講生の皆さんも少なくなかったのではないのでしょうか。  
受講生の数だけ様々な人生があり、学校行事や習い事など、忙しい毎日だったことと思います。その上で、1年かけて「探究」に組み、ポスターを完成させて、この日を迎えました。皆さんには、どんな景色が見えていたのでしょうか。

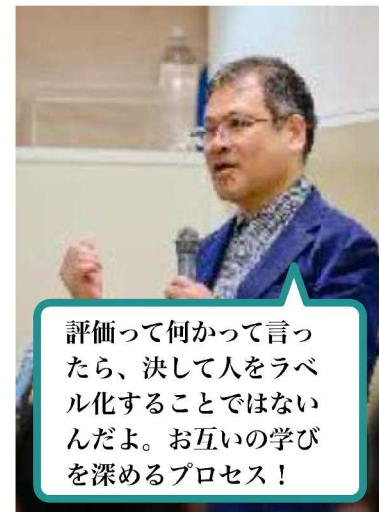
私たちのプログラムのミッションは、「次世代系人材の育成」です。そのために「そもそも、次世代系人材に必要な力とはなんだろう」という問いから出発し、その力を「科学の枠組みを動かせる力」と定義しました。科学史の中で、科学の枠組みを動かした偉人なんて、一握りです。でも、一つ言えることは、どんな偉人も、生まれた時は赤ちゃんであり、成長する過程で、多くの人と出会い、刺激を受けながら科学の枠組みを動かす偉業を成した遂げたのです。その源泉はどこにあるのか...それは、きっと、みんなと同じ「小さな試行錯誤」に他なりません。



今年度は「新しい価値を世の中に問う探究活動」を、MM☆ (My Mini Discovery) と名付けて、ポスター発表までの1年間の道のりを、ガイドしようと試みました。今年度の夏休み後「自由研究に取り組んでみた人」は、あまりいませんでしたが、今は全員が探究活動を行い、その成果を発表することができました。来年度（令和8年度）の夏休みの自由研究は、この今の研究を深め、表現方法を整えれば...

## 東洋大学 後藤顕一先生 「相互評価で探究を深める」

全員がポスターセッションを終えたあと、後藤先生より、回転方向が変わって見えるダンサーの動画や、異なる濃さに見えるにもかかわらず実際には同じ濃さである画像が紹介されました。これらの事例を通して、私たちは「自分の見方から離れることの難しさ」や「思い込みによって判断してしまう傾向」があることを改めて認識しました。そのような思い込みから抜け出す一つの方法は、他者の視点に立つこと。ポスターセッションにおいて他者と関わることは、新たな気づきや発見を生む契機となる。発表者と聞き手は、いわば車の両輪のように相互に作用し合いながら、価値を高めていく存在であると実感できました。



ご紹介いただいた問いを立てる際の6つの視点

1. 言葉の意味や定義を問う: 研究の基盤となる用語の定義を明確にする。
2. 「なぜ」を問う: 繰り返し問い、本質的な問題に迫る。
3. 信憑性を問う: 情報の根拠や妥当性を確かめる。
4. 比較の問い: 複数の事象を比較し、共通点や相違点から問いを見出す。
5. 先行研究や先行事例を問う: 過去の研究との関連性を問う。
6. 影響を問う: 事象が社会や未来に与える影響を考える。

思いこみを捨て  
思いつき拾う

最後に、もう一度だけ「質疑」を体験しました。すぐに、この発想が応用できるわけではありませんが、「ポスターセッションの意味や価値となんなのか」を問いつづけて、この経験をいろいろな場所で活用してください。



修了証書の授与をもって、1年間のプログラムを無事に終えました。受講生の皆様、保護者の皆様、1年間ありがとうございました。来年度も「MM☆」を軸にして、更なるプログラム改善を試行錯誤していきます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。